平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立海津特別支援学校

学校番号	１１０

自己評価

学校教育目標	児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことができるように （1）児童生徒一人一人の障がいの状況や、発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。 （2）仲間と共にたくましく、明るく生きる力を育む。 （3）一人一人が社会自立に必要な基礎的･基本的な知識･技能を培う。

評価する領域・分野	◇「自立」に向けた力を育成するための指導・支援の在り方
現状及びアンケートの結果分析等	上記の領域・分野は、全校の研究テーマで、継続して全校で実践研究を進めているところである。（今年度は、４年計画の４年目である。） 教職員に関する保護者等を対象とするアンケート項目では、「学校の先生は、専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている。」「学校の先生は、児童生徒の実態を的確に捉えている。」について「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が８０％程度であり一定の評価は得ているが、「生き生きとしている。」「親しみが持てる。」「児童生徒に愛情をもって接している。」「熱心に取り組んでいる。」という項目では９０％を超えた評価をいただいてることと比較すると、依然として教員の専門性について物足りなさを感じている割合が高いという結果であった。今年度は授業デザインを大切にして、職員が話し合う場を多く設定できるように学校全体で工夫している。このことが職員の専門性の向上につながり、そして保護者にも伝わるようにしていきたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自立に向けた力を育成するための指導・支援を工夫する。 ・各部で自立に向けて児童生徒に付けたい力を明確にし、部内又は部を超えた指導・支援の実践交流を積み重ね、各部で明確にした自立に向けて付けたい力の系統性を教師間で共通理解し、児童生徒の自立に向けた力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	・一人一実践に取り組み、生活単元学習等における指導・支援の在り方を確かなものにする。 ・部別研究において、略案授業の事後研究会を行い、授業ポイントの有効性について検証し、部内での再確認と共通理解を図る。 ・全校研究において、各部の実践をもとに、小・中・高等部の系統性を全校で共通理解する。
目標の達成に必要な具体的取組	・昨年度の成果と課題をもとに、授業関係者全員でアイデアを出し合い、ＫＪ法等でまとめながら単元計画を立てる。（ＴＴによる授業デザイン） ・今年度の生活単元学習の単元指導内容について「かかわる力」「生活する力」「働く力」「楽しむ力」の観点で指導内容分析表を作成し、それをもとに昨年度の実践と比較しながら、考察や単元設定の見直しをする。 ・年２回全員が参観する全校公開授業を行い、事後研究会では全員での小グループ討議とし、授業者が各グループに入るように縦割りでグルーピングする。その記録は全員で回覧し、共通理解を図る。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒の満足度や充実感の把握 ・保護者からの意見・感想 ・学校評議員等からの意見 ・部内における授業の教員相互の事後評価 ・平成３０年度年間指導計画案、単元計画一覧表案の完成

取組状況・実践内容等	・昨年度の成果と課題をもとに、一人一実践となるよう生活単元学習の略案授業を行った。授業者全員で出し合ったアイデアをＫＪ法でまとめ、それをもとに授業のポイントが明記された指導略案、単元指導計画表を作成した。略案授業は部内公開とし、計画的に見合うようにし、実施後は事後研究を行いよかった点や改善点をまとめた。 ・各授業集団ごとに今年度の生活単元学習の指導内容について、「かかわる力」「生活する力」「働く力」「楽しむ力」の観点で指導内容分析表を作成し、昨年度の実践と比較しながら単元設定の見直しを行った。 ・ＴＴによる授業デザインで作成した指導案により、全校公開授業を年２回行った。公開授業は全員参観し、事後研究会は縦割りでグルーピングした小グループで討議した後、代表が発表するとともに、記録をまとめ研究係に提出し、全員で回覧することで系統性を共通理解した。

評価の視点	評価
① 生活単元学習において、３年間の研究で確認できたことを意識した授業づくりができたか。	Ⓐ Ｂ Ｃ Ｄ
② 部別研究会を通して各部での実践交流を積み重ね、自立に向けた力を育成するための指導・支援を工夫することができたか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ
③ 全校研究会で各部での実践をもとに、各部で明確にした自立に向けて付けたい力の系統性を教師間で共通理解し、指導・支援の在り方を確かなものにできたか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

成果・課題	総合評価
○一人一実践では、授業関係者全員で「授業デザイン」を行うことで、教員一人一人が主体的に発言したり、活発な意見交流をしたりする等、積極的な姿勢で授業づくりに臨むことができた。 ○他部の様子を知ることで、取り組んでいる内容がどんな力に結び付くのか、学習内容がどのようにステップアップしていくのか等が分かり、系統性がより確かなものになった。 ●ＴＴは有効になされているか、言葉掛け以外の支援の工夫はされているか、集団の仕組み方はよいのか等、より効果的な支援方法について、共通の視点での工夫・検討が必要である。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

来年度に向けての改善方策案	・「授業デザイン」を大切にし、支援に関する共通の視点を取り入れた授業改善を行っていく。 ・各部の指導がつながるように、授業を見合ったり、情報交流をしたりしていく。 ・生活単元学習だけでなく、今までの研究で確認できたことを他の教科・領域にも広げていく。

学校関係者評価　（平成３０年２月９日実施）

意見・要望・評価等
・どの授業も明るくとてもよい雰囲気である。小中学部の児童生徒は笑顔がいっぱいあふれていて、高等部の生徒は集中して臨んでいるのが印象的である。 ・小さいときから少しずつ積み上げていくことで、素晴らしいものを作り上げることができるまでに成長していくという過程を感じることができる。 ・学校評価に関するアンケートの結果は素晴らしいものであるが、今後も評価が下がらないように努力してもらいたい。また「わからない」という回答が減るように、保護者に意識づけできるような取り組みも考えてほしい。